



女子シングルス1回戦 対戦する大谷桃子
＝ジャカルタ(共同)

2018 ジャカルタ・ アジアパラ大会

上地、大谷 車いす テニス 8強進出

競泳 15歳・北野、池ら「金」

ジャカルタ・アジアパラ大会第2日(7日)本格的に競技が始まり、車いすテニスは女子シングルス1回戦で上地結衣(エイベックス)が地元イン

ドネシア選手に6-0、6-0と完勝。マレーシア選手を下した大谷桃子(スポーツクロマティ)は15歳の北野安美紗(ルネサンス登美ヶ丘)が2分17秒66で今大会の日本選手団第1号となる金メダルを獲得した。同1000

競泳の女子2000メートル自由形(知的障害S14)は由形(知的障害S14)は15歳の北野安美紗(ルネサンス登美ヶ丘)が2分17秒66で今大会の日本選手団第1号となる金メダルを獲得した。同1000

初Vへ圧勝発進
○:世界トップレベルの技術を見せつけた。車いすテニス女子シングルスで第1シードの上地は、地元選手を退けて初戦を突破。1ゲームも許さない圧勝で8強入り。優勝すれば東京パラリンピック代表が決まる重要な大会で好発進した。

相手は初対戦で「練習も見られず、利き手もどちらか分からなかった」という。それでも、ほとんどポイントすら与えなかった。前回3位から初の頂点に向け「目指すのは金メダル。もう一度、気を引き締めて準備する」と油断を見せなかった。

23歳ホープメダルに照準 大谷

車いすテニス女子で23歳の大谷桃子(スポーツクロマティ)にとっては初の国際総合大会。日本のエース上地に次ぐ国内2番手を争うホープは「東京パラリンピックに向けてメダル獲得を目指す」の言葉どおり、1回戦を堂々としたプレーで勝ち上がった。

車いすテニス歴は3年目だが、テニス自体は小学校3年生から始め、栃木・作新学院高ではダブルスで高校総体に10位で今大会も出場して

とまひを起すようになり、車いす生活となった。豊富なテニス経験を生きかき、初出場した大会でいきなり準優勝を果たすと、昨年はツアーに本格参戦。世界ランキングを17位まで上げた。同10位で今大会も出場して

トンスポーツアリーナに「負けてられない」とライバル心を示す一方、「まだ学ばなければいけないこともある」と謙虚に話す。今大会は勝ち上がれば、準決勝で上地と対戦する可能性がある。東京パラリンピックを見据え「どの程度通用するのかを客観的に捉えたい」と、日本のトップへの挑戦を心待ちにした。

